

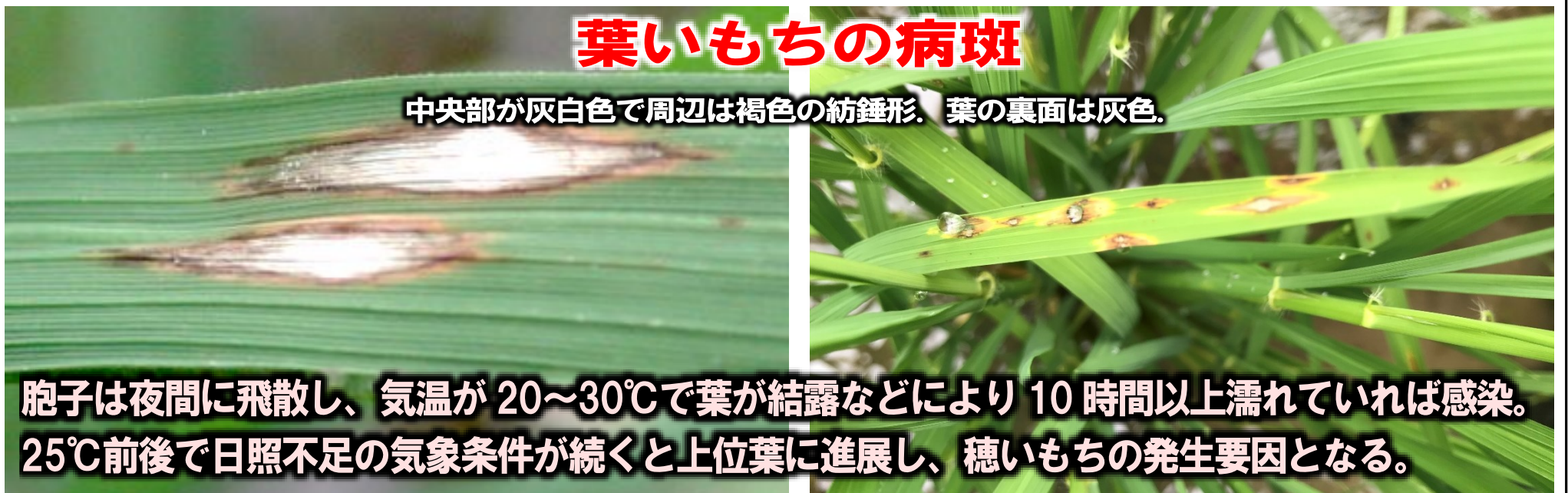
緊急

水稲管理情報

令和5年7月
J A 志 賀
能登南部営農推進協議会

いもち病の発生に警戒を!!

- 6月中旬から曇りや雨の日が多く、『いもち病』が発生しやすい天候が続いており、この状態は、今後2週間は続く見込み。
- 至急、ほ場を確認し、防除を徹底して下さい!!



- ① **こまめにほ場を見回りし、早期発見に努めて下さい。**
 - 常発地や葉色の濃いほ場を重点に見回りして下さい。(苗はすぐ処分!)
 - 予防剤を施用していないほ場や、いもち病に弱い品種は、特に注意が必要です。
※ 特に注意を要する品種：コシヒカリ、カグラモチ、ひやくまん穀、飼料用米(ゆめあおば)
- ② **葉いもちを確認したら、すぐに治療のための防除を実施下さい。**
 - 周辺ほ場の発生状況も確認し、広範囲に発生している場合は、地域ぐるみで防除して下さい。

ブラシン粉剤DL	4kg/10a	使用時期：収穫7日前まで 成分数：2成分
または ブラシンフロアブル	1,000倍希釈 60~150リットル (→空中散布の場合、高濃度散布可能。要確認)	使用回数：2回以内 ※ 能登米の場合は、農薬の成分回数に注意下さい。

※ 梅雨の晴れ間を見計らい、散布後3~4時間の無降雨が続くタイミングで散布

- ずり込み症状を呈するほ場では、4~5日後に薬剤の再散布を行って下さい。

- ③ **葉いもち発生の有無に関わらず、基幹防除を徹底して下さい。**

【1回目】出穂始め	トレバリダビーム粉剤DL	いもち・紋枯・カメシ	2成分
【2回目】出穂期 7~10日後	ラブサイドキラップ粉剤DL	いもち・カメシ	2成分
【3回目】出穂期 14~17日後	キラップ粉剤DL	カメシ	1成分

病害の対策は、①「治療より予防」 ②「早期発見・早期防除」が鉄則